# 7 大山道・まほろば・岡津道コース（約 7.5km）

## ～ 桂坂・岡津・緑園　往事の古道と新しい街並みの調和 ～

相鉄いずみ野線弥生台駅から「大山道」道標の前を通り、住宅街を抜けていくと中川地区センターに出ます。そばの桂坂公園から不動橋までの「柏尾通り大山道」沿いは、土地の人々が男坂・女坂と呼んでいた坂の入口にあった「大山道」道標や、「大山道」・「ほしのや道」の道標になっていた不動像などがあり、往時の「大山道」の面影をもっとも残すところです。不動橋の手前を阿久和方面へ行くと、中央に円形の橋がある「集いのまほろば」があり、川辺の散策に最適です。県道瀬谷柏尾線を横切ると、区内で唯一原型を留めている富士塚があります。県道瀬谷柏尾線に戻り、しばらく行くと「岡津道」に出ます。道沿いには有名なしだれ桜のある西林寺があり、さらに中田・さちが丘線に沿い区境を歩くと普光寺があります。阿久和川を渡ると、三嶋神社に出ます。ここから子易川沿いの道に出て、北上するとそこは緑園です。

### ❶ 西が岡公園

公園内には、桜やブナ科の樹木などがたくさん植えられています。春にはお花見が、秋には紅葉が楽しめます。また、ブランコ、すべり台などの遊具や砂場もあって、地域の憩いの広場となっています。隣接してグランドを備えており、西が岡地区最大の公園です。近くには、中川地区センターがあります。

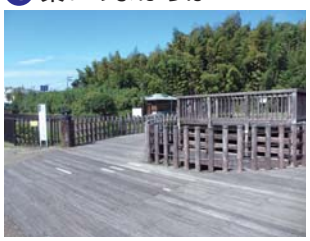
### ❷ 永明寺（ようめいじ）

曹洞宗大本山総持寺の孫末寺（まごまつじ）で、本尊として聖観世音菩薩木立像を安置しています。古文書等によれば、天文 11 年（1542）「岡津郷領主太田越前守入道宗真（そうしん）」の創立とあります。大正 12 年（1923）の関東大震災の時、裏山と堂宇が崩壊し、現別院の地に移転しましたが、周囲の開発と阿久和川の氾濫（はんらん）の影響もあり、平成 2 年に旧跡地山上に大本堂が落成しました。

### ❸ 大山道・ほしのや道道標

「柏尾通り大山道」を歩く人が必ず足を止めるのが永明寺別院門前にある「大山道道標」です。この道標は不動橋の南西の袂にあったものを移転したものです。ここから 250 mほど西へ行くと、左側に双体道祖神と道標を兼ねた地神塔（じじんとう）があります。地神塔の台座には、「上り　大山道、下り　かしを道」と記された珍しいものです。

### ❹ 集いのまほろば

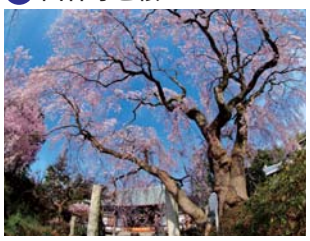


「集いのまほろば」は、阿久和川の水辺拠点として、すべての人にやさしい川づくりをテーマに整備されています。中央部には「集いの橋」と名付けられた、立体的に櫓を組んだ円形の木製の橋があります。不動橋から新明神橋までの間に、5 つの「まほろば」があり、川沿いには歩道があり、 せせらぎの音を聞きながら川辺を散歩するのに最適です。

### ❺ 富士塚・向導寺

富士塚は富士講の人々が、富士山の遥拝所（ようはいじょ）として、また信仰の対象として富士山をかたどった山です。塚の上には 4 基の富士講碑が立っています。富士塚の前には不動堂と琴平神社があります。不動堂は明治初期まで大山詣での人々で賑わったと言われています。隣には浄土宗の向導寺があり、木造阿弥陀如来坐像が安置され、平安時代後期の本格的定朝の作風がみられる貴重なものです。（非公開）

### ❻ 西林寺（さいりんじ）と桜



岡津消防出張所の斜め前に「しだれ桜」で有名な西林寺があります。長禄 4 年（1460）に新橋町の中丸氏から出た団誉閑悦（だんよかんえつ）上人を開山として開かれた浄土宗の寺で、正しくは亀鶴山（きかくさん）一心院西林寺といいます。本尊は阿弥陀如来坐像を安置しています。境内には「しだれ桜」の他にも、樹齢 550 年以上といわれる黒松があります。

### ❼ 原田由右衛門（よし(う)えもん）顕彰碑

西林寺境内に「朴翁居士之碑（ぼくおうこじのひ）」と刻まれた寺子屋師匠原田由右衛門の碑があります。師の恩に報いるために門人たちが建てたものです。由右衛門は岡津の自宅で寺子屋を開きました。区内で寺子屋を開いた人に、上飯田の本興寺住職、和泉の長福寺住職、中田の小山三郎兵衛、岡津の吉田雄山（ゆうざん）、西林寺住職栄隆（えいりゅう）などがいます。

### ❽ 普光寺（ふこうじ）・天神社（てんじんしゃ）

この寺は光応山東光院（こうおうさんとうこういん）普光寺といい、宗旨は高野山真言宗、本尊は玉眼、彩色の聖観音像を安置しています。本堂は平成 3 年の建築、本堂の内陣には弘法大師の一生を描いた欄間（らんま）があり、境内には歓喜天（かんきてん）堂や四国八十八カ所の砂が敷き詰められた砂踏霊場があります。寺入口右の盛土の上に天神社が祀られ、その境内に原田由右衛門門人建立の「筆塚（ふでつか）」があります。

### ❾ 三嶋神社

岡津全域の鎮守さまで、天文 5 年（1536）に創建と伝えられ、祭神は大山祇命（おおやまつみのみこと）です。天正 18 年（1590）に今の岡津小学校地に陣屋を築いた代官頭の彦坂小刑部（こぎょうぶ）元正をはじめ、その後の岡津村の領主は守護神として三嶋神社を信仰しました。昭和 47 年（1972）まで神社の参道は県道から鳥居まで真っ直ぐで、岡津小学校は神社の参道を校庭として借りていました。

# 8 村岡川（宇田川）源流・石巻康敬コース（約 5.2km）

## ～ 中田北・東　治世、文化の後を街並みにたどって ～

市営地下鉄立場駅前の交差点に庚申塔があります。これは、戸塚・踊場・中田を経て、和泉で「柏尾通り大山道」に合流する「大山道」の道標です。ここから野球場のある中田中央公園を経て、村岡川（宇田川）の源流になっている弁天池がある御霊神社へと向かいます。泉の森ふれあい樹林を経て、中田町宮ノ前公園から江戸期の中田村領主石巻康敬の墓を通り、石巻氏建立の中田寺前に出ます。寺の境内には力士戸田川の墓などがあります。ここから中田ふれあいの樹林を経て市営地下鉄中田駅へ至る道は、石巻氏治世と文化の後を見ながら街並みの中を歩く散歩道です。

### ❶ 立場交差点庚申塔

この庚申塔が最初に祀られた場所は、中田北一丁目 1 番 9 号辺りで、その頃の長後街道とかまくらみちの交差点でした。大正 3 年（1914）に新しい長後街道の開通に伴い、庚申塔も移されましたが、その後、長後街道拡幅等で奉斎場所が消失し、また別の場所に移されました。平成 11 年、立場交差点の完成を機に、現在の場所に祀られました。

### ❷ 中田中央公園

平成 13 年 5 月に区内 3 ヶ所目の地区公園として開園しました。区内では初めての本格的な野球場とレストハウス・駐車場があるとても広い公園です。公園内には雑木林や小川もあります。富士山がよく見える所もあるので、周辺を散歩するのもおすすめです。

### ❸ 御霊神社

祭神は鎌倉権五郎景政と日本武尊の二柱で、旧鎌倉郡内に多くある御霊神社の一つです。拝殿右横の小さな瓦葺きの建物は、昭和 20 年（1945）の終戦まで中和田小学校の奉安殿だった建物で、木造の学校建築物としては区内最古のものです。境内には古式消防器具保存庫、宮本湊先生の徳をたたえた頌徳碑、村岡川（宇田川）源流の弁天池があります。

### ❹ 寛文庚申塔

弁天池前の手水舎横に、横浜市の指定有形文化財に指定された寛文 6 年（1666）建立の角柱笠塔婆型の庚申塔があります。庚申信仰は江戸時代に多くの庶民の信仰を集めました。この庚申塔は庚申信仰が青面金剛の信仰と結びつく以前の、比較的早い時期のもので、南無阿弥陀仏の六字名号が庚申信仰と結びついたことを、三猿の存在が示しています。

### ❺ 泉の森ふれあい樹林

この泉の森ふれあい樹林は、針葉樹が主ですが、常緑樹・落葉樹もある混合林です。コジュケイ・メジロ・ヒヨドリ・ムクドリなどの野鳥が多く見られます。樹林は、地元の愛護会の方々により管理されていて、周囲には花も植えられています。近くには、泉寿荘・泉スポーツセンターなどがあります。

### ❻ 庚申塔

中田町宮ノ前公園の南端、東中田小学校入口の信号柱の傍らに 2 基の庚申塔が立っています。大きい方が元禄 15 年（1702）2 月、小さい方は安政 7 年（1860）2 月の建立で、南ふじ沢道、北八王子道と刻まれて、道標もかねています。

### ❼ 石巻康敬の墓

江戸初期に中田村の領主になった石巻康敬の家は、戦国時代に小田原北条氏の評定衆や相模西部の郡代を勤めた家で、本国は愛知県姫街道沿いの、石巻山を越える本坂峠を下った辺りです。康敬は中田の石巻館で 23 年間を過ごし村の発展に力をそそぎました。慶長 18 年（1613）10 月 1 日 80 歳で逝去、持仏の観音堂（稲葉堂）の地であったこの地に眠っています。

### ❽ 中田寺

江戸期に中田村の領主であった石巻康敬が開基となり、慶長 17 年（1612）に本誉良廓上人が創建した、本尊阿弥陀如来像を置く浄土宗の寺です。境内には石巻康敬の持仏堂であった十一面観音を置く稲葉堂や、「南無阿弥陀仏」と刻まれた十七世住職香川法隆上人の頌徳碑、当地小島家出身の中田寺二世辨良上人の墓や力士戸田川の墓があります。

### ❾ 力士戸田川の墓

戸田川鷲之助は享保 20 年（1735）に中田の小山家で生まれました。江戸角界の名門 2 代目玉垣の弟子として入門し、宝暦 6 年（1756）5 月の上方番付では戸田川鷲之助の四股名で小結、翌年の京都興行では関脇に、やがて玉垣親方となり、角界第一人者が名乗る 3 代目雷権太夫を襲名、将軍家上覧相撲を実現させ、相撲の黄金時代を築いた人です。

### ❿ 中田ふれあいの樹林

横浜市で 2 番目に開園した「ふれあいの樹林」で西向きの緩傾斜地にあります。0.8 ha と小規模ですが、日当たりが良いので、冬でも小春日和の日には散策に良い所です。ベンチもあるので休憩場所として、また、散策の途中で立ち寄る場所としても最適です。

### ⓫ しらゆり公園

中田駅から近く、区内でも大きな公園の一つです。公園で食事をする親子連れもたくさんいます。夏はプールもあるので、夏休みに入ると大勢の子供達で賑わっています。公園の遊具の種類も豊富に揃っています。春には、桜の名所としても知られています。

## 7　大山道・まほろば・岡津道コース

地図 ━━ のルート

～桂坂・岡津・緑園　往事の古道と新しい街並みの調和～

スタート
弥生台駅 ー ❶西が岡公園ー中川地区センターー
❷永明寺ー ❸大山道・ほしのや道道標ー
❹集いのまほろばー ❺富士塚・向導寺ー ❻西林寺ー
❼原田由右衛門顕彰碑ー ❽普光寺・天神社ー
❾三嶋神社ー 緑園都市駅
ゴール

### 領家（7コース）

むかし、岡津に城のあったころのこと、岡津の城主の夫人が出産することになりました。いよいよ出産というとき、暗くなってしまったので困っていると、ふいに現れた龍が口から火を吹きだし、あたりをパッと明るくしました。おかげでお産が無事に済んだので、夫人は胞衣を埋めて塚にしました。一説には、お産や月の忌みを花ということから、この付近を龍花と書いて「りゅうけ」と呼ぶようになりましたが、いつごろからか「領家」と書くようになったのだということです。

ー「ふるさと泉再発見　私たちの泉区」ー

### 島田の塚（7コース）

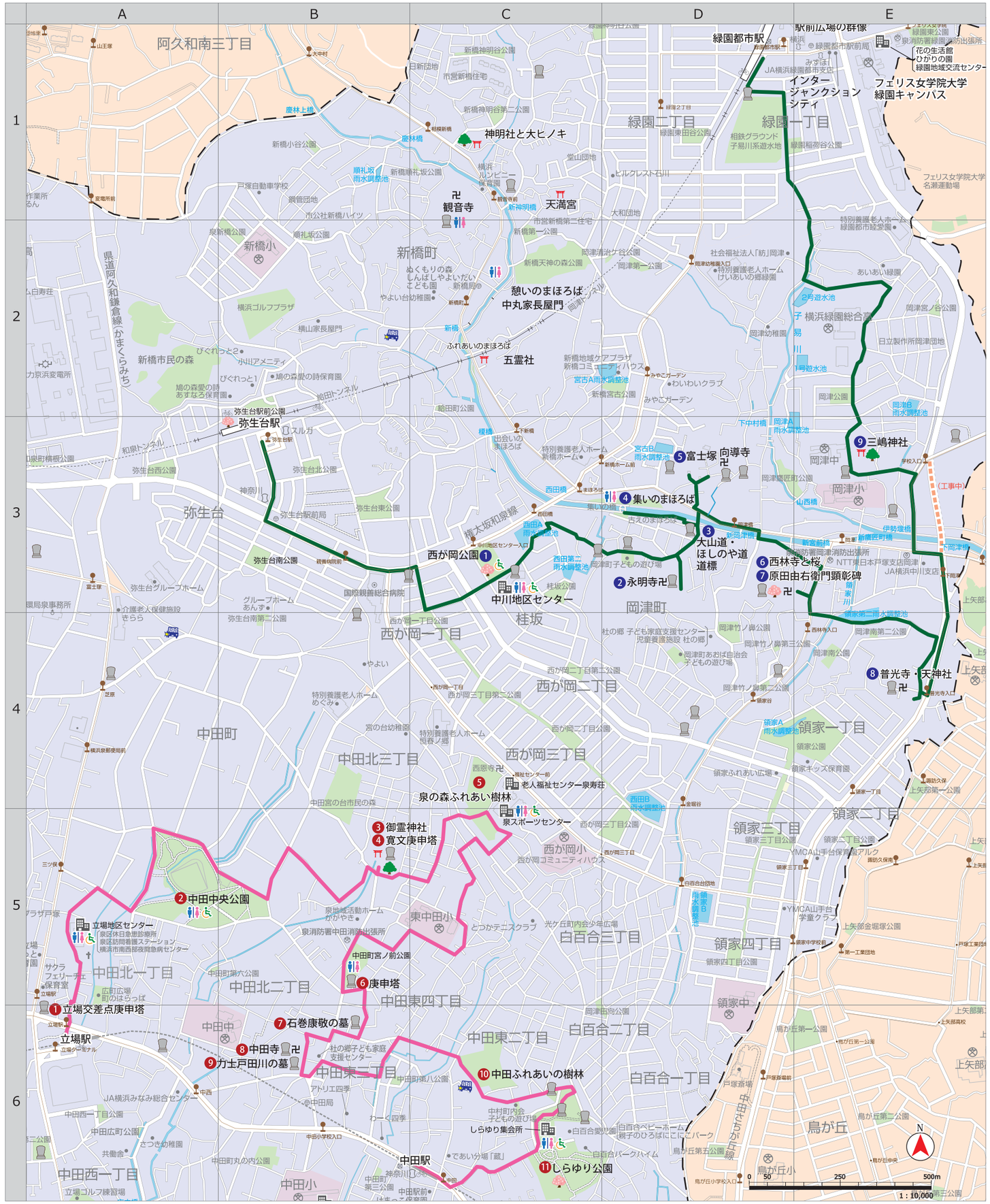
むかし、鎌倉時代の領家に、九州出身の島田三郎という武士が住んでいました。ある時幕府は、蒙古軍からの防備のために、三郎を九州にもどす事にしました。三郎は、妊娠していた夫人の丹後局に守り刀と銅の鏡を授けて「生まれたのが男の子なら守り刀を、女の子ならば鏡を携えて来るように」と言って別れました。やがて、無事に男の子が生まれたので、局は守り刀を持って帰国しました。その時、鏡を三嶋神社に納め、胞衣を屋敷に埋めました。その場所を「島田の塚」といい、明治の頃までは水田の中に島のようになっていたということです。

ー中川郷土誌「ゆかりの里」ー

### 岡津橋（7コース）

むかし、阿久和川は幅がとても広くて橋もなかったので、人々は舟で川を渡っていました。ある日、一人の旅の僧が子易の方から来て川を渡ろうとしましたが、舟は向こう岸にあって人影もなく、渡れずに困っていました。その時、美しい娘が現れて「どうしたのですか」と尋ねました。僧が「川を渡りたいが橋もなく、舟もなくて困っているのです」と言うと、娘はたちまち蛇になり、向こう岸に泳ぎ着くと見る間に小さな橋となり、僧を無事に向こう岸に渡しました。それから蛇は三嶋神社の方に消え去り、僧は西林寺に住んだということです。

ー中川郷土誌「ゆかりの里」ー




## 8　村岡川（宇田川）源流・石巻康敬コース

地図 ━━ のルート

～ 中田北・東　治世、文化の後を街並みにたどって ～

スタート
立場駅 ー ❶立場交差点庚申塔 ー 立場地区センター ー
❷中田中央公園 ー ❸御霊神社 ー ❹寛文庚申塔 ー
❺泉の森ふれあい樹林 ー 中田町宮ノ前公園 ー
❻庚申塔 ー ❼石巻康敬の墓 ー ❽中田寺 ー
❾力士戸田川の墓 ー ❿ 中田ふれあいの樹林 ー
⓫ しらゆり公園 ー 中田駅
ゴール

### 腰抜け坂（7コース）

むかし、普光寺裏の山から北に向かって下る坂（岡津道）を腰抜け坂と呼んでいました。江戸初期、岡津村の鷹匠町に代官頭彦坂小刑部元正の陣屋があり、その近くに刑場があったといわれています。罪を負って岡津の陣屋に連れてこられた罪人は、陣屋が見える坂までくると、やがて首を切られるのを恐れて腰を抜かし、歩けなくなってしまったのです。このことから「腰抜け坂」と呼ばれたということです。しかし実際は、急坂のため荷物の運搬に苦労したので、そこから「腰抜け坂」の名が出たのではないかという説もあります。

ー「いずみいまむかし」ほかー

### 力士戸田川の話（8コース）

＜その１＞

大山詣での際、お百度参りの心願をかけた戸田川は、毎日、中田の生家から稲の束を持ってお参りに行き、途中にある戸田の渡しの清流で洗ったものを大山の神前に供え、十束、二十束とたまるごとにそれを差し上げて力をつけ、ついに百日目、百束の稲束を高々と上げて大願成就したということです。

＜その２＞

上方の相撲で彼の地の名だたる大きな力士と取り組んだ時、相手は一笑して戸田川を頭上高く差し上げ、「どうだ小童、関東が見えたか」と、今にも投げ出そうとした時、戸田川はとっさに相手の髻をくわえると、首の自由を失った相手は、戸田川が落ちる前に両手を付き、負けとなりました。場内騒然とした中で戸田川は「これは関東の髻くわえだ」と悠々と引き揚げました。しかし珍手に負けた上方力士は収まらず、すぐ追手を差し向けました。戸田川は裏街道を通って野宿を重ねて、やっとのことで関東へ引き揚げたということです。

＜その３＞

生家の父親が屋敷の大木の陰で風呂に入っていた時、突然雷が鳴り大雨が降ってきたので、戸田川は父親を風呂桶に入れたまま家の中の土間に運びました。そのとたん、屋敷の大木に雷が落ちました。父親は息子戸田川の怪力のため災難を免れたということです。　　ー「いずみいまむかし」ー

# 9 山神社・鯉ヶ久保ふれあいの樹林コース（約 3.9km）

## ～ 中田南　静かな住宅地の中の緑のオアシス ～

ここのコースの道沿いには、中田コミュニティハウス、中田西たまご公園や、広葉樹に覆われ、小動物・野鳥・昆虫が生息する鯉ヶ久保ふれあいの樹林などがあり、静かな住宅地のオアシスとなっています。葛野小学校の近くに、文化 4 年（1807）造立で「葛野村氏子中」の銘のある双体道祖神があります。これは、この地を開発し、山神社（やまがみしゃ）を中心に暮らしてきた人々が立てたものです。踊場から葛野を通り「かまくらみち」を越えて、和泉中央南一丁目と和泉が丘二丁目の境を通り、和泉作右衛門公園南側、長福寺前を通り、神明社で「柏尾通り大山道」と合流する道も「大山道」で、大山詣での道として、また、他の地域とを結ぶ暮らしの道として、重要な役割を果たしていました。

### ❶ 中田西たまご公園

昭和 45 年（1970）ごろ、県の分譲地の一画に小さな公園があり、そこに大きな卵型の遊具が設置されていたことから通称「たまご公園」と呼ばれていました。平成 9 年、横浜市に移管され、地元に愛護会が発足し、卵も小さく形を変え、遊具も整えられました。現在の名称は自治会が募集して決まったものです。近隣の小さな子ども達の遊び場になっています。

### ❷ 山神社（やまがみしゃ）

現在、戸塚苑という地域の住宅地内に祀られている山神社は、昔から葛野に住む 15 軒の人たちによって信仰され、維持管理されています。3 月と 11 月の 17 日に年番（ねんばん）の家で宮日待（みやびまち）を行ない、昔からの信仰行事を続けています。ご神体として元徳 2 年（1330）と刻まれた板碑が安置されていましたが、盗難に遭い所在不明となっています。

### ❸ 葛野の双体道祖神

山神社北側の道沿いに男女二神が並立した双体道祖神があります。葛野に住む人たちが村人の安全を願い、悪霊が入って来るのを防ぐため、文化 4 年（1807）に造立したもので、毎年 1 月 14 日にはドンド焼きが行われています。道祖神は“さえのかみ”（道祖神の和名。塞の神。障の神）、“さいのかみ”（さえのかみが転じて）、“ふなどのかみ”（岐神）などとも呼ばれ、区内には文字塔や像を彫ったものが 40 余基ほどあります。

### ❹ 鯉ヶ久保ふれあいの樹林

踊場駅そばのこの樹林は平成 7 年に開園され、面積は 1.4ha あり、泉区内に 3 つある樹林の中では一番広い自然とのふれあいゾーンです。斜面をクヌギやコナラ、エゴノキ、ミズキなどの広葉樹が覆い、林床部分にはアオキやヤツデなど多種類の植物が四季を彩ります。コジュケイなどの野鳥やタヌキも見られ、昆虫も棲息する緑豊かな林です。北側には樹林沿いに水路があり、静かに清水が流れています。

### ❺ 寒念仏供養塔（かんねんぶつくようとう）

踊場駅の入口脇に寒念仏供養塔があります。この塔は元文 2 年（1737）旧暦の 11 月、中田寺（ちゅうでんじ）の住職等 5 人の僧が念仏修行した時、仕上げとして建立したものです。また、この地には猫が踊ったという昔話が伝わっており、この塔は猫への供養塔とも言われています。

### ❻ 踊場駅

市営地下鉄踊場駅は、平成 11 年 8 月 29 日に開業しました。その昔、猫が集まり毎夜踊っていたという昔話にちなんで、天井を走り回る猫（写真）など、構内にはたくさんの猫がデザインされています。その他にもドーム型の空間・照明・モビールなど大変きれいな駅で、平成 12 年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれています。

## ウォーキングコラム

### 5 ウォーキングの予防の効果

ウォーキングは有酸素運動です。
良い効果がたくさんあります。

| | |
|---|---|
| 1 日 平均 2000 歩 | 寝たきり予防 |
| 1 日 平均 5000 歩 | 要介護、認知症、心疾患、脳血管疾患の予防 |
| 1 日 平均 8000 歩 | 動脈硬化、骨粗しょう症、ロコモティブシンドローム、高血圧、糖尿病の予防 |

中之島研究所調査より

# 10 かばた橋・旧深谷通信所跡地コース（約 5.7km）

## ～ 中田西・下和泉　暦月名の橋めぐりと広大な草原から大山を眺めて ～

村岡川（宇田川）に架かる 12 の橋には、陰暦の月名と縄文中期の遺跡に因んだ「かばた橋」の名がつけられ、欄干には各月の花が描かれています。この川沿いの道は、橋を訪ねながら水に親しめる散歩道です。川と別れた後に、旧深谷通信所跡地に出ます。ここは、富士山が一望できるビューポイントにもなっています。旧深谷通信所跡地を横切り下和泉ふれあい公園、昔ながらの農村の景観を残す防風垣のある矢澤家、第六天神社、四ツ谷湧水（よつやゆうすい）を経て、相鉄いずみ野線ゆめが丘駅へと続くこの道は、家族連れのハイキングにも最適です。

### ❶ 暦月名の橋とかばた橋

御霊神社の杜（もり）から湧き出す水が村岡川（宇田川）の源流です。この川には 12 の橋が架かっています。11 の橋には、陰暦月の名がつけられていますが、何故か師走はありません。また、文月と水無月の間には、この地の縄文中期の遺跡にちなんだ「かばた」の名の橋があります。橋にはその月の花が描かれていて、たずね歩くのもまた楽しいものです。

### ❷ 旧深谷通信所跡地周辺

泉区の最も南西に位置し、戸塚区と接する旧深谷通信所跡地は、昭和 16 年（1941）、旧海軍の送信業務強化のため、東京海軍通信隊戸塚分遣隊の設置が決定され、用地買収、施設整備が行われ、昭和 19 年（1944）に開隊しました。戦後、米軍の深谷通信所として接収されてきましたが、平成 26 年に返還されました。現在、横浜市は「跡地利用基本計画」の策定を目指し、検討を進めています。ここからは、晴れた日には、西方遥かに大山、丹沢連峰や霊峰富士を展望することができます。

### ❸ 下和泉ふれあい公園

この公園は、平成 11 年に開園されました。「ふれあい広場」のそれに続く一段高いところに、子どものためのすべり台などの遊具を備えています。天気のよい日には、「ふれあい広場」でスポーツを楽しむ人の姿も見られます。またここは、車椅子利用者用トイレのある数少ない公園です。

### ❹ 矢澤家の防風垣

防風垣には、乾燥に強く、刈り込みに耐え、樹形がまとまりやすい樹種が用いられます。ここの防風垣は、2 種類の樹木によって 2 段造りになっています。下部は 2m ほどの高さまで常緑の低木のツゲを、その上には常緑の小高木のモチノキを 10m ほどの高さまで配しています。側面を垂直に、上部を水平に刈り込んだ緑の壁は、延べ 70m にも及びます。

### ❺ 第六天神社（だいろくてん）と酒湧池（さかわくのいけ）

下和泉の四ツ谷交差点近くに、第六天神の古社があります。深閑とした境内と鎮座する社殿に、昔が偲ばれます。神社の東側に池があり、真中に弁天様が祀られていることから弁天池と呼ばれていました。いつの頃からか孝子（こうし）伝説にちなんだ「酒湧池」と呼ばれるようになりました。

### ❻ 四ツ谷湧水（よつやゆうすい）

泉区は地下水脈に恵まれ、湧水の数は市内有数です。四ツ谷湧水は、和泉川の下流、中和泉から下和泉にかかる辺りの一段高くなっている畑の下のくぼみにあり、にじみ出るように水が湧いています。和泉川側道沿いに、案内の標柱も設置されています。

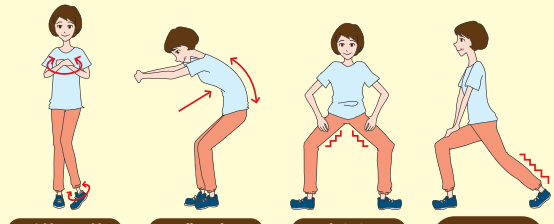
### ❼ ゆめが丘駅周辺

ガーデンハウスをイメージした柱の無い鉄骨構造のホームは、周囲と調和し、明るく開放的な駅です。平成 12 年に「関東の駅百選」（国土交通省関東運輸局）に選ばれました。また、環状 4 号線の架道橋は「ニールセン橋」というアーチ橋の一種で、アーチ部と桁部を斜めに張ったケーブルで結ぶ構造の橋で、在来鉄道では日本で初めて採用されました。平成 26 年度から泉ゆめが丘地区土地区画整理事業が施行されており、駅周辺は新たな街に生まれ変わろうとしています。

## ウォーキングコラム

### ⑥ ウォーキングの前後にストレッチ

ストレッチは、けがを予防し疲労を回復します。



| 手首・足首 | 背　中 | 太もも | ふくらはぎ アキレス腱 |
|---|---|---|---|
| 回す。 | 両手を組み、前に伸ばし背を丸める。 | 両足を開き、腰を落とし膝を外側に押す。 | 前足を曲げ、後ろ足を伸ばす。 |

## 9　山神社・鯉ヶ久保ふれあいの樹林コース

地図 ━━ のルート

～ 中田南　静かな住宅地の中の緑のオアシス ～

スタート
中田駅 ― 中田コミュニティハウス ― ❶中田西たまご公園 ― ❷山神社 ― ❸葛野の双体道祖神 ― 葛野コミュニティハウス ― ❹鯉ヶ久保ふれあいの樹林 ― ❺寒念仏供養塔 ― ❻ 踊場駅
ゴール

## 10　かばた橋・旧深谷通信所跡地コース

地図 ━━ のルート

～ 中田西・下和泉　暦月名の橋めぐりと広大な草原から大山を眺めて ～

スタート
立場駅 ― 中田広町公園 ― 中田町第五公園 ― ❶暦月名の橋とかばた橋 ― ❷旧深谷通信所跡地 ― 下和泉公園 ― ❸下和泉ふれあい公園 ― ❹矢澤家の防風垣 ❺第六天神社と酒湧池 ― ❻四ツ谷湧水 ― 草木橋 ― 下飯田駅 ― ❼ ゆめが丘駅
ゴール

### 踊場（９コース）

むかし、戸塚宿に、水本屋という醤油屋がありました。水本屋では、なぜか毎晩一本ずつ手ぬぐいがなくなります。そこで主人は、ある晩、手ぬぐいに紐をつけて、その先を自分の手に結んで寝ました。紐が引かれて目を覚ますと、飼い猫のトラが、手ぬぐいをくわえて逃げようとしていました。主人が、猫が手ぬぐいを何にするのかと、不思議に思いました。ある夜、踊場付近を主人が通りかかると、手ぬぐいをかぶった猫たちが踊りながら、「おい、今夜は水本のトラがいないぞ」「あいつ、今夜家で熱いオジヤを食べさせられて、舌にやけどしたと言っていたぜ」「そうか、それで来ないんだな」「トラがいなけりゃ、調子があわねえ」などと、話し合っています。びっくりした主人が家に帰って聞いたところ、やはりトラにオジヤを食べさせたということです。そこで、手ぬぐいのなくなるなぞが、やっと解けたということです。　　－「戸塚区郷土誌」－

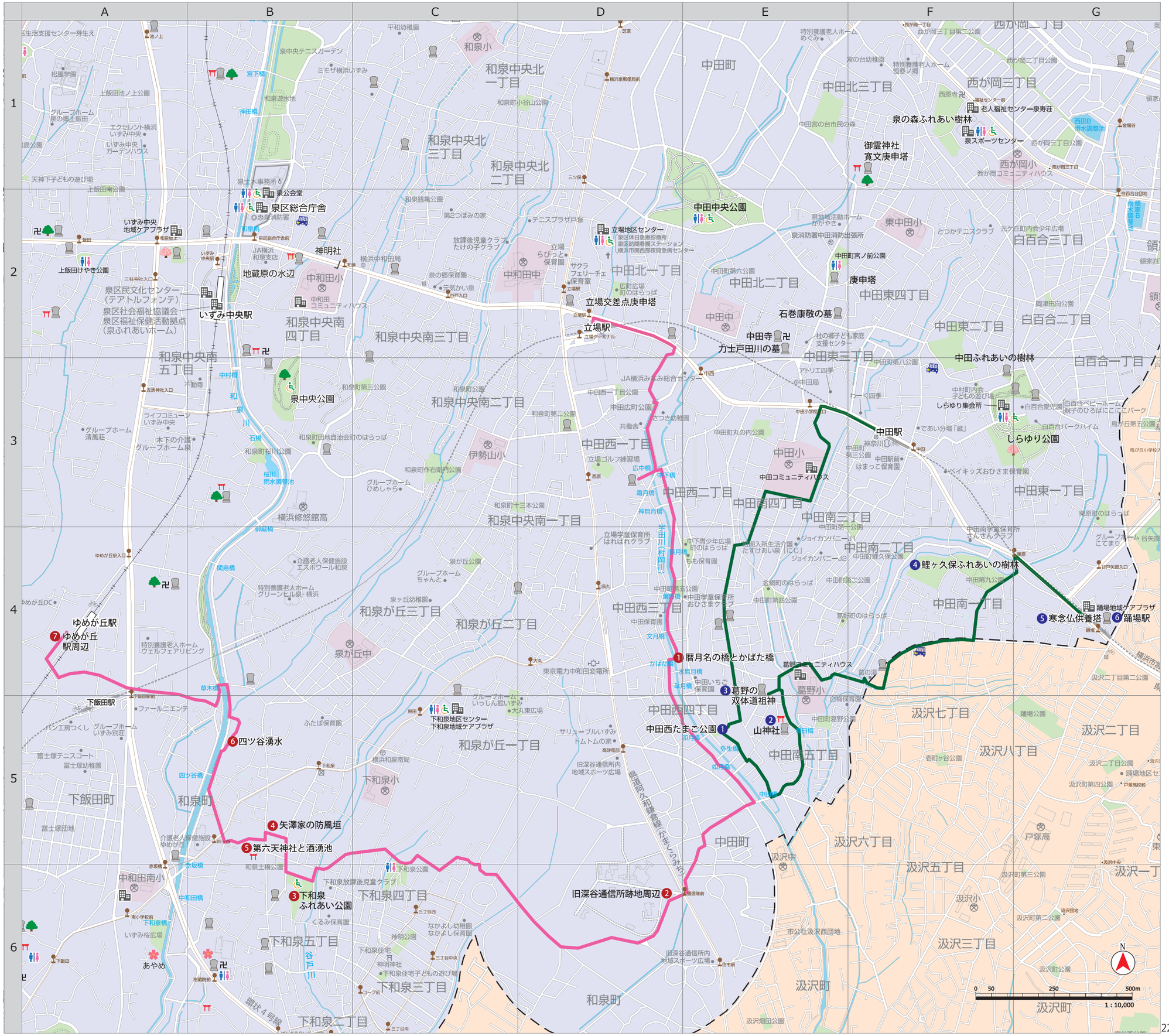
### 酒湧池（１０コース）

むかし、第六天神社の近くに孝行息子がいました。父親は寝たきりの病人で酒が大好きでした。

苦しい生活の中から幾ばくかの金を作り出して父親に酒を飲ませていましたが、ある日、第六天神社のそばの山道を通るとブーンと酒の匂いがしてきました。その匂いは山の中の池からしていました。息子は急いでそれをくんで持って帰り父親に飲ませました。すると、「こんなよい酒は飲んだことがない」と父親は非常に喜びました。毎日毎日息子はその池の水をくんできて、父親に飲ませていました。しかしある朝、息子はいつも通りくんできた酒樽を村人に見られてしまいました。その村人はこれで一儲けしようとして、大きな樽に池の水をくみましたが、水はただの水になっていました。息子が村人に酒樽を見られた橋はその後、樽見橋といわれるようになりました。

また、一説には、酒をくんできた息子が村人に見つかってしまったので、急いで樽をその橋の下に隠した、その一人占めにしようとした心が神様の気にふれて、ただの水になってしまったのだ、ともいわれています。

－「中和田郷土誌」－



# 泉区の古道

泉区には、新田義貞が鎌倉攻めに通ったとも言われる「鎌倉道」や、大山信仰の道として賑わった「大山道」のような主要な古道が交差しています。

## 暮らしと治世の道　「鎌倉道」「岡津道」

鎌倉へ通じる「鎌倉道」はたくさんありますが、中でも重要な「鎌倉道（藤沢八王子道）」[１・３コース]（Ｐ３、７）が区内の上飯田・下飯田を通っています。また、和泉町との境を南北に真っ直ぐ走る「たつ道」と呼ばれる道も、戦時に使われた「鎌倉道」と考えられています。一方、立場を南北に通る道も、支線として使用されたと考えられますが、現在この道に付けられている呼称「かまくらみち」は、市民の応募により付けられた愛称です。「岡津道」[７コース]（Ｐ 15）は、小田原北条時代には、小田原に通じた道でもあります。

## 暮らしと順礼の道　「ほしのや道」「大石堂道」「いずみ観音道」

札所めぐりとして賑わった道は、「ほしのや道」[２・６コース]（Ｐ４、12）の他、旧鎌倉郡観音三十三札所を巡る道もあります。「大石堂道」[２コース]（Ｐ４）は、阿久和の二十三番札所観音寺から上飯田の柳明神社の地にあった二十四番札所大石寺に通じる道で、松陽高校前のほしのや道との分岐点に道標が立っています。また、「いずみ観音道」[５コース]（Ｐ 11）は、和泉の二十五番札所正法寺から中田の二十六番札所中田寺稲葉堂に続く道で、和泉町４４９１番地付近には「いづミむらくわんおん道」と刻まれた道標があります。

## 暮らしと信仰の道　「大山道」

大山参りの道として、江戸時代に最も利用された道は、柏尾の不動坂を起点として岡津・和泉を通る「柏尾通り大山道」[５・７コース]（Ｐ 11・15）です。また、戸塚の清源院横から矢沢・踊場・中田を経て、和泉で合流する道も「戸塚道」[９コース]（Ｐ 19）と呼ばれる「大山道」の一つで、現在は長後街道としてその面影を残し、人々の暮らしの道としても重要な働きをしてきました。

この他に、中田から白百合・矢部を経て吉田町に通じる「谷矢部道（やとやべみち）」や白百合から上矢部を経て不動坂に通じる「柏尾道」、さらには、和泉から萩丸・葛野・踊場を経て戸塚へ抜ける道も「大山道」[９コース]（Ｐ 19）です。

## 暮らしと流通の道　「神奈川道」「二俣川道（ふたまたがわどう）」「武相国境の道（ぶそうこっきょうのみち）」「郷境道（ごうさかいみち）」

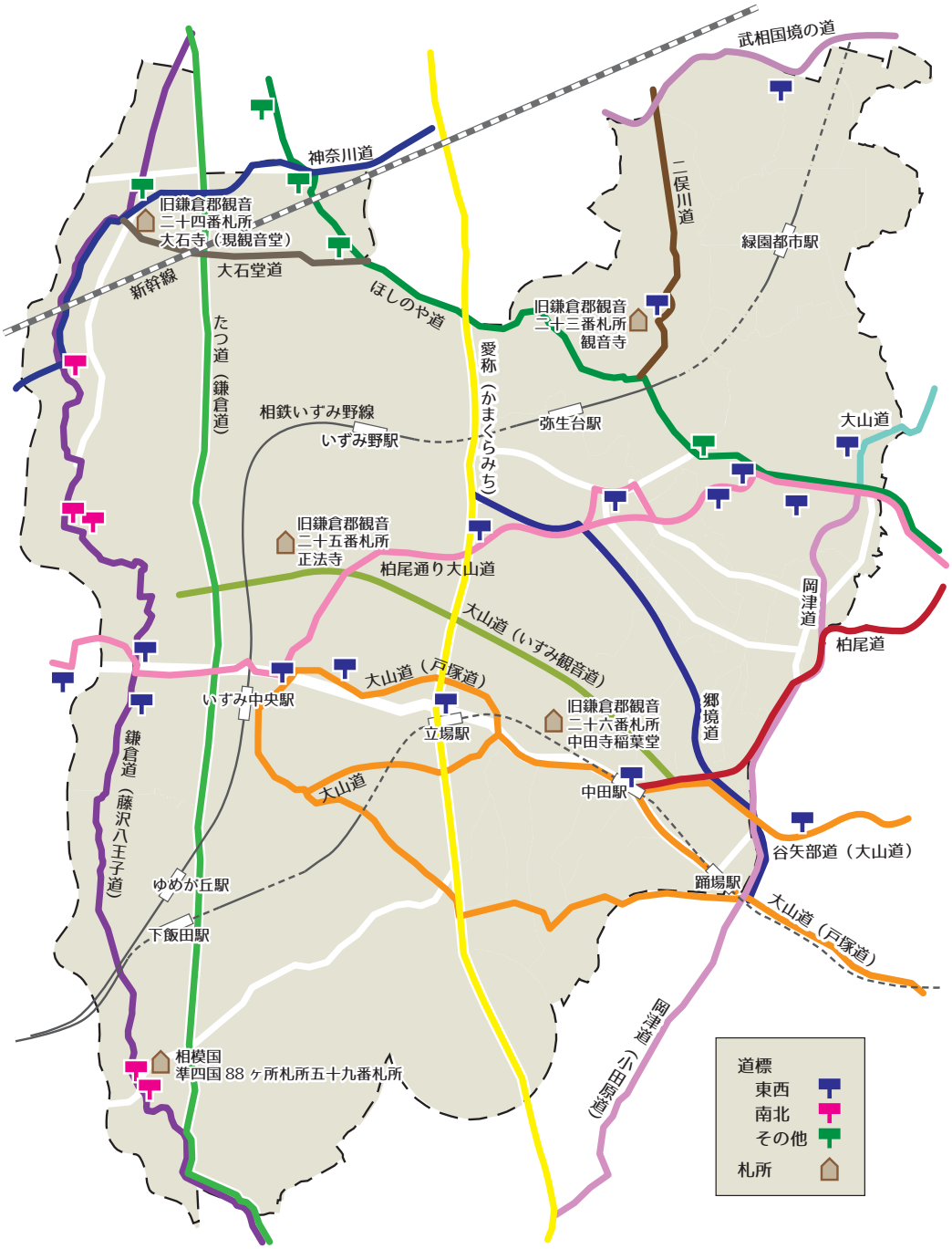
その他、区内には生活に欠かせない道もたくさんありました。

「神奈川道」[1・2コース]（P3、4）は、大和市の下和田から境川を渡り、旧いちょう小学校前で「鎌倉道（藤沢八王子道）」と合流します。さらに北上して柳明神社裏を通り、瀬谷区との境をたどり、二俣川・保土ヶ谷へと通じます。中屋敷・柳明・上和泉には道標があります。江戸時代、飯田・和泉の各村の年貢は、この道を通って保土ヶ谷の新町川岸まで運び、そこから船で江戸の蔵前に運んだと、宝永４年（1707）の文書に記されています。

「二俣川道」[６コース]（Ｐ 12）は、新橋から観音寺前を通り、神明台方面から二俣川に抜ける道です。

「武相国境道」[６コース]（Ｐ 12）は、泉区の北端に位置し、相模と武蔵の国境の道です。

「郷境道」は、戦国時代の分国支配の頃の重要な郷境であったと思われる道で、今でもこの道が町境になっています。



# 泉区の歴史（年表）

| | | |
|---|---|---|
| ◆明治　元年（１８６８） | ８月 | 区内の村々の領主が領地を返納。 |
| | 12月28日 | 神奈川県の管轄となる。 |
| ◆明治　５年（１８７２） | ４月 | 村の名主を廃し、戸長・副戸長を置く。 |
| ◆明治　６年（１８７３） | ５月 | 区画整理が行われ、鎌倉郡北部33ヵ村を第17区に編成。区の会所を中田の中田寺に置く。第17区６・７・８番組が現在の泉区に該当。 |
| ◆明治　７年（１８７４） | ６月 | 区・番組の称号を廃し、区を大区、番組を小区と改める。 |
| ◆明治11年（１８７８） | ７月 | 群区町村編成法の執行により、大区・小区制を廃し、郡に郡役所、村に戸長役場を設置。 |
| ◆明治17年（１８８４） | ７月 | 各村の戸長を廃し、連合戸長役場を和泉村の長福寺、岡津村の向導寺に設置。 |
| ◆明治22年（１８８９） | ４月 | 市制・町村制の実施により上飯田・下飯田・和泉・中田は合併し鎌倉郡中和田村に、岡津・阿久和・上矢部・秋葉・名瀬は合併し鎌倉郡中川村になる。持田角左衛門が製糸場を設立。これ以降、各所に製糸場が設立。 |
| ◆明治42年（１９０９） | | 横浜港開港50周年にあたり、横浜市歌・徽章を制定。 |
| ◆大正　３年（１９１４） | ５月 | 戸塚・長後間の新道が開通（明治35年着工）。成宮鶴吉が乗合馬車の営業を開始。 |
| ◆大正　９年（１９２０） | ５月 | 戸塚・長後間の新道を県道に認定。鶴屋自動車会社が乗合バスの営業を開始。 |
| ◆大正12年（１９２３） | ９月 | 関東大震災で中和田村では730戸中328戸が、中川村では623戸中138戸が全壊するなど多大な被害を受ける。 |
| ◆大正15年（１９２６） | ６月 | 戸塚の不動坂から阿久和の観音寺下まで県道が開通（大正10年着工、昭和６年には店村まで全通）。 |
| ◆昭和　３年（１９２８） | | 戸塚・阿久和間に相沢自動車店が乗合バスを運行開始。 |
| ◆昭和　７年（１９３２） | | 旅客機が東京・大阪間の夜間飛行を開始。航空灯台を和泉町横根稲荷の通称「富士やま（富士塚）」に設置。（昭和19年撤去） |
| ◆昭和14年（１９３９） | ４月 | 横浜市は第６次市域拡張を実施。鎌倉郡のうち、１町７村（戸塚・瀬谷・中川・中和田・川上・大正・豊田・本郷）が編入され、戸塚区となる。 |
| | ５月 | 戸塚区役所開庁。このとき、下阿久和が分離して新橋町となる。 |
| ◆昭和22年（１９４７） | | 旧中和田村役場庁舎に戸塚区役所中和田地区事務所を設置。 |
| ◆昭和26年（１９５１） | ３月 | 中和田地区事務所を廃止。戸塚区役所中和田出張所を開設。 |
| ◆昭和27年（１９５２） | ５月 | 戸塚消防署中和田分遣所を設置（現泉消防署）。 |
| | 12月 | 中川地区事務所を廃止。戸塚区役所中川吏員派出所を開設。 |
| ◆昭和44年（１９６９） | 10月 | 戸塚区から瀬谷区が分区。 |
| ◆昭和50年（１９７５） | ４月 | 中和田出張所を和泉町字神田に移転。 |
| ◆昭和51年（１９７６） | ４月 | 相模鉄道いずみ野線「二俣川駅」～「いずみ野駅」間が開通。 |
| ◆昭和52年（１９７７） | ７月 | 中和田出張所を廃止し、中和田支所を開設。 |
| ◆昭和59年（１９８４） | 12月 | 「横浜戸塚区の再編成に関する条例」を市会で議決。 |
| ◆昭和60年（１９８５） | 12月 | 新区名「泉区」を選定。 |
| ◆昭和61年（１９８６） | 11月３日 | 泉区発足。 |
| ◆昭和62年（１９８７） | ３月 | 区のシンボルマーク制定。 |
| ◆昭和63年（１９８８） | ４月 | 泉消防署開署。 |
| ◆平成　元年（１９８９） | ２月 | 泉図書館開館。 |
| ◆平成　２年（１９９０） | ４月 | 相模鉄道いずみ野線延伸（「いずみ野駅」～「いずみ中央駅」）。 |
| ◆平成　３年（１９９１） | ５月 | 泉公会堂開館。 |
| ◆平成　４年（１９９２） | ４月 | 区の花「あやめ」制定。泉警察署開署。 |
| | ９月 | 泉スポーツセンター開館。 |
| ◆平成　５年（１９９３） | ９月 | 泉区民文化センター「テアトルフォンテ」開館。 |
| ◆平成　８年（１９９６） | 11月 | 泉区発足10周年。泉区総合庁舎完成。 |
| ◆平成11年（１９９９） | ３月 | 相模鉄道いずみ野線延伸（「いずみ中央駅」～「湘南台駅」）。 |
| | ８月 | 横浜市営地下鉄延伸（「戸塚駅」～「湘南台駅」）。 |
| ◆平成14年（２００２） | ７月 | 泉区の人口が15万人を超える。 |
| ◆平成19年（２００７） | ２月 | 区マスコットキャラクター「いっずん」デビュー。 |
| | 11月 | 区の木「サクラ」、「キンモクセイ」、「ハナミズキ」、「アジサイ」、「コムラサキ」及び「モミジ」を制定。 |
| ◆平成23年（２０１１） | ３月 | 横浜伊勢原線全線開通。 |
| ◆平成26年（２０１４） | ６月 | 旧深谷通信所跡地返還。 |
| ◆平成28年（２０１６） | 11月 | 泉区発足30周年。 |

泉区のシンボルマーク

## 泉区周辺で見られる魚と鳥

水と緑に囲まれた泉区は、横浜市の中でも数多くの魚や鳥が見られます。区内を流れる境川、和泉川、阿久和川、村岡川（宇田川）などには、多くの魚が生息しています。一度は姿を消したアユなどの魚も、下水道が整備され、普及したことによりきれいになった川に戻ってきました。

また、泉区には田んぼや遊水地、川、斜面林など多様な環境があり、カワセミやサギ類、カモ類などの水辺の鳥、キジなどの草原性の鳥、ルリビタキなどの森林性の鳥など、多種類の鳥が生息しています。

アブラハヤ

アユ

オイカワ

ギンブナ

コイ

ドジョウ

アオサギ

イソシギ

カルガモ

カワセミ

カワラヒワ

キジ

## 泉区周辺で見られる魚と鳥

キセキレイ

シジュウカラ

ジョウビタキ

チュウサギ

ハクセキレイ

マガモ

メジロ

モズ

ルリビタキ

（写真提供：横浜市環境創造局政策課、横浜市環境科学研究所、公益財団法人神奈川県公園協会）

### あとがき

泉区では区内の魅力を紹介するため、平成 16 年 3 月に泉区散策ガイド「水と緑と歴史の散歩道」を発行しました。発行にあたっては区内の歴史・ウォーキング・子育てに関するグループの代表者、小学校教諭、一般公募による区民を中心とした泉区散策ガイド編集委員会・検討委員会による編集協力がありました。
それから 12 年余り経過し泉区が区制 30 周年を迎えるにあたり、本ガイドの改訂版を発行することになりました。
改訂版の編集・執筆等にあたっては、泉区歴史の会の協力を得ながら、実地を再確認し、各ポイントや紹介文の加除修正を行いました。

今回の発行にあたり、散策モデルコースを全 12 コースから全 10 コースに見直すとともに、地図や文字を見やすくするため、冊子の形態をＢ５三折りからＡ４版とし、泉区外の人に親しみやすいデザインに刷新しました。

最後になりますが、改訂版発行にあたり、改訂版発行を快諾していただいた泉区散策ガイド編集委員会・検討委員会委員長の宮本忠直氏をはじめ、今回も編集作業にご協力いただきました石井茂会長をはじめ「泉区歴史の会」の皆様、情報や写真をご提供いただいた関係者各位、本ガイドの発行にご尽力いただいた皆様に厚くお礼を申し上げます。

泉区役所

IZUMI

泉区散策ガイド 水と緑と歴史の散歩道

制　　作：横浜市泉区役所総務部地域振興課
〒245-0016 横浜市泉区和泉町4636-2
電話 045-800-2395　Fax 045-800-2507
Ｅメール：iz-chishin@city.yokohama.jp
ウェブサイト：http://www.city.yokohama.lg.jp/izumi/03shinkou/
編集協力：泉区歴史の会
発　　行：平成16年3月
改　　訂：平成28年11月